

## 春日山常緑広葉樹林内における

### オオチャイロハナムグリの記録

瀬口翔太・澤島拓夫

近畿大学農学部環境管理学科里山生態学研究室

*Osmoderma opicum* found in the warm-temperate evergreen forest on Mt. Kasugayama, Nara, Japan

Shota SEGUCHI, Takuo SAWAHATA

Department of Environmental Management, Faculty of Agriculture, Kinki University, 3327-204  
Nakamachi, Nara 631-8505, Japan

#### Synopsis

The hermit beetle, *Osmoderma opicum* Lewis, 1887 is one of the endangered beetle species living in tree hollows. We found the beetle in a warm-temperate evergreen forest on Mt. Kasugayama. This beetle has been thought inhabiting a summergreen forest zone and the coniferous trees zone of the high altitude. Therefore, it was the first time to prove that the beetle can inhabit in a warm-temperate evergreen forest.

Keywords: Coleoptera, Endangered insects, Hermit beetles, Hollow tree, Saproxylic beetles,

#### 1. はじめに

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis, 1887は甲虫目コガネムシ科、ハナムグリ亜科に属し、体長22~32mmにもなる日本最大のハナムグリで、日本固有種である(図1) <sup>1) 2)</sup>。成虫の出現時期は7~9月で <sup>3)</sup>、その色調は光沢のある黒褐色か、青銅ないし紫銅色の光沢を帯び <sup>1)</sup>、オスはメスを誘うために性フェロモンである強い麝香臭<sup>じやくしゆう</sup>を放ち <sup>4)</sup>、前胸背板中央

に強い2縦隆条を有する <sup>1)</sup>。ハナムグリは「花潜り」の意味で、花に集まり花粉や花蜜を食べる種が一般的であることに由来する <sup>4)</sup>が、樹液に集まる種も少なくなく、オオチャイロハナムグリの成虫は、野外での食性が不明である <sup>5)</sup>。ハナムグリ亜科の多くが幼虫期の餌資源として腐葉土、堆肥、朽木等の腐植を利用するが、本種の場合は樹洞(樹木に空いた空洞)内に溜まった腐植を利用する特性を持つ <sup>3)</sup>。

樹洞を繁殖場所とするためか、日中、飛翔中の成虫が見られることもあるが<sup>2)</sup>、多くは樹洞内及び樹洞の入り口付近から移動しないため、人目に触れにくい昆虫種といえる<sup>2)6)</sup>。

本属の種はユーラシアと北アメリカの森林地帯に数種ずつが分布し、本種の生息する日本はこの属の分布の南限にあたる<sup>5)</sup>。

本種の我が国における分布は、本州、四国、九州、屋久島とされるが、屋久島のものは若干異なり、分類学的には未処理で、未命名である<sup>1)2)</sup>。このように分布域は広いが、各地において生息地が限定されており、いずれの産地においても個体数が少なく、非常に稀な種である<sup>7)</sup>。その理由は、近年の森林伐採や道路、ダム建設等によって、大径木や古木の残る原生的な自然林の消失や乾燥化が進み、本種の生息環境が激減しているためである<sup>3)</sup>。このような背景から、本種は環境省レッドデータブック2014において準絶滅危惧に指定されており<sup>3)</sup>、近畿地方各府県のレッドデータブックをみると、京都府で要注目種<sup>8)</sup>、奈良県で注目種<sup>9)</sup>、兵庫県で絶滅危惧Ⅱ類<sup>10)</sup>、三重県で絶滅危惧Ⅱ類<sup>11)</sup>となっている。また、本種は2015年現在において大阪府<sup>12)</sup>、滋賀県<sup>13)</sup>、和歌山県<sup>14)</sup>のレッドデータブックに記載されていない。

## 2. 報告と考察

春日山原始林でのオオチャイロハナムグリの記録は、1940年代後半に側溝を這っていた個体が得られたという記述のみ<sup>6)</sup>で、その後の本種の生息を示す確かな情報は皆無であった。しかし2014年8月20日、春日奥山原始林調査団による奈良県春日山原始林での昆虫生息



図1 オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis, 1887

1♂, 奈良県奈良市春日山, 20. VIII.

2014, 瀬口翔太 採集・大阪自然史博物館 保管. 体長30mm

調査中、朽ち木上に静止していた本種のオス成虫を発見し(図1)、本種が現在に至るも春日山原始林において確実に生息していることを確認した。従って本報告は、春日山原始林に本種が生息することを示す正式な記録として初めてのものとなる。

本種の分布記録は山地帯から亜高山帯にかけて<sup>15)</sup>のブナやミズナラ等からなる夏緑広葉樹林が主<sup>16)</sup>であるが、これは奈良県でも同様で、これまでの県下での確認地域は大台山系や大峯山系等(上北山村、十津川村、野迫川村)、ブナクラス以上の森林帯が残されている山塊が存在する地域(図2)に限定されている<sup>9)</sup>。しかしながら、今回本種の生息を確認した春日山原始林は、平地に残存する数少ない照葉樹を主体とする原生林である<sup>17)</sup>。本事例のように低標高地での本種の記録は溝井(1961)と後藤(1984)の報告のように僅かとはいえ存在する<sup>18)19)</sup>ことから、本種がブナ帯以上の山地に多く観察される<sup>20)</sup>のは、本種が冷涼な気候を好むからではなく、本種が依存する樹洞が

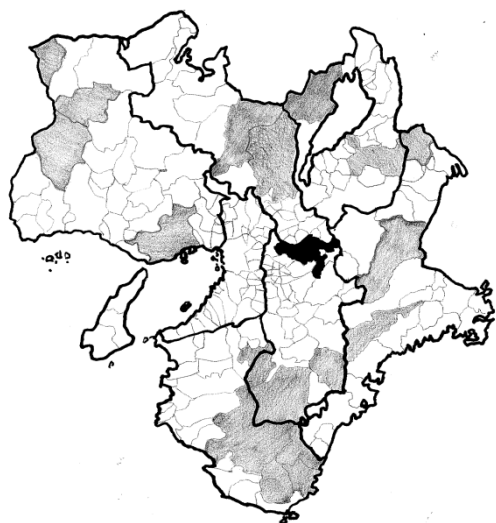


図2 近畿地方におけるオオチャイロハナムグリ生息地

■ 今回本種が採集された奈良県奈良市  
 ■ 近畿圏内レッドデータブック<sup>8) 9) 10) 11) 12) 15) 21)</sup>を基にした本種の生息状況\*

※ 滋賀県に関して、2005年版に分布域として山系の名称のみ記載のため、滋賀県比良山系北部と鈴鹿山脈上部に関しては高島市・東近江市を使用した。また今回大阪府での記録は見つけることができなかったが、大野(1987)によると生息記録がある<sup>5)</sup>とされる。

形成されやすい大径木や古木の残っている原生的な自然環境<sup>3)</sup>が色濃く残されているからであると考えられる。

この仮説は、本種の生息地が、山々が連なった山塊であることが一般的(図2)であることから指示される。

近畿地方は日本の植生区分から照葉樹林と夏緑樹林が優先するが、奥山に位置し伐採を免れやすかった高地の夏緑樹林とは反対に、低地にある照葉樹林は7~8世紀頃、そのほとんどが夏緑型二次林の里山に改変され、現在

に至っては纏まった照葉樹林がほとんど残存しない<sup>22)</sup>。しかしながら、本種の確認された春日山原始林は、一つの山全体をご神体とする希有な形で保存された広大な照葉樹林<sup>17)</sup>が残存し、付近に大きな山塊が存在せず完全に隔離された場所である(図2)。

これらのことから、本報告は「和歌山県新宮市のシイ、カシ林(モミ・ツガ混生)で本種を発見したことがある」と記す後藤(1984)の報告<sup>19)</sup>と合わせ、長期にわたる攪乱を受けていない豊かな自然林であれば、低標高地の照葉樹林であっても本種が生息できることを示す貴重な事例となる。

春日山原始林の個体群は、照葉樹林<sup>17)</sup>に残存し、周囲の個体群から完全に孤立していることから、保全の重要性が高いと考える。あわせて、春日山原始林をはじめとする近畿圏における照葉樹林の保全、生物の生息調査の重要性をここに強調したい。

最後に、採集圧による環境の悪化を懸念し、春日山原始林内における詳細な採集地および採集環境をここに明かすことは控える。

### 3. 謝辞

春日山原始林における本種の記録を調べて下さった春日奥山原始林調査団団長小西博之氏に心より御礼申し上げます。

### 4. 引用文献

1. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝(1985) 原色日本甲虫図鑑(II). 保育社.
2. 大野正男(1987) 日本産主要動物の種別文献目録(19)オオチャイロハナムグリ

- (1). 東洋大学紀要 教養課程篇(自然科学). 第31号. 別刷り.
3. 環境省自然環境局野生生物課稀少種保全推進室 (2015) レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物- 5 昆虫類. 株式会社ぎょうせい.
4. 川上洋一 (2010) 絶滅危惧の昆虫辞典 [新版]. 株式会社 東京堂出版.
5. 加藤陸奥雄・沼田真 (監). 朝比奈正二郎 (編著) (1993) 滅びゆく日本の昆虫50種. 築地書館株式会社.
6. 三木三徳・廣田嘉正 (1998) 奈良春日山原始林と周辺のコガネムシ 調査報告. 奈良県野生生物保護委員会.
7. 滋賀県生きもの総合調査委員会 (2006) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック2005年版-. サンライズ出版.
8. 京都府自然環境保全課 (2015) 京都府レッドデータブック 2015 第1巻 野生動物編. 京都府自然環境保全課.
9. 奈良県レッドデータブック策定委員会 (2008) 大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック~植物昆虫編- 維管束植物、植物群落、昆虫類-. 奈良県農林部森林保全課.
10. 兵庫県 (2012) 「兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト2012(昆虫類)」 <  
<http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/03/22.pdf>>(参照 2015-10-3)
11. 乙部宏 (2015) 「三重県レッドデータブック2015」 <  
<http://www.pref.mie.lg.jp/MIDORI/HP/shizen/ikimono/rdb/RDB2015/insect1.pdf>>(参照 2015-10-3)
12. 大阪生物多样性保全ネットワーク (2014) 大阪府レッドリスト2014.大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室 みどり推進課.
13. 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 (2011) 「滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県版レッドリスト-/滋賀県」, <  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/rdb/index.html>>(参照 2015-11-24)
14. 和歌山県環境生活部環境政策局 (2012) 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-[2012年改訂版]. 和歌山県環境生活部環境政策局.
15. 埼玉県庁 (2008) 「改定埼玉県レッドデータブック2008」, <  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/red/animal-menu.html>>(参照 2015-9-20)
16. 佐藤光一 (2005) 「オオチャイロハナムグリ / レッドデータブックとちぎ」, <  
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/shizen/sonota/rdb/detail/18/0185.html>>(参照 2015-9-20)
17. 平成4・5年度特定研究「奈良公園の動植物を教材化するための基礎的研究」研究班 (代表者 北川尚史) (1994) 奈良公園の自然. 奈良教育大学.
18. 溝井正春 (1961) 採集覚え書き・福島県昆虫相資料 1. 福島生物, (4) : 19-20
19. 後藤伸 (1984) 紀伊半島南部の照葉樹林. 遺伝, 38(4) : 90-97
20. 鳥取県生物学会 (2012) レッドデータブックとっとり 改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-. 鳥取県生活環境部公園自然課.
21. 和歌山県環境生活部環境生活総務課 (2001) 保全上重要な わかやまの自然-

和歌山県レッドデータブック. 和歌山県  
環境生活部環境生活総務課.

22. 服部保 (2014) 照葉樹林 (Lucidophyll forest). 神戸群落生態研究会.